

平成27年度鹿児島学習定着度調査始良・伊佐地区結果分析（概要）

始良・伊佐教育事務所

1 平均通過率

		全体の通過率			「基礎・基本」の通過率			「思考・表現」の通過率		
		県	地区	県との差	県	地区	県との差	県	地区	県との差
国語	小5	51.7%	51.0%	-0.7	57.1%	56.5%	-0.6	40.3%	39.4%	-0.9
	中1	69.0%	69.6%	0.6	71.3%	71.7%	0.4	64.3%	65.1%	0.8
	中2	62.5%	62.8%	0.3	65.5%	66.4%	0.9	56.4%	55.7%	-0.7
社会	小5	66.2%	66.0%	-0.2	72.7%	72.1%	-0.6	50.8%	51.4%	0.6
	中1	57.5%	55.4%	-2.1	66.5%	63.4%	-3.1	35.9%	34.9%	-1.0
	中2	61.2%	63.3%	2.1	67.5%	69.7%	2.2	46.3%	48.1%	1.8
算数 数学	小5	59.4%	59.6%	0.2	65.0%	65.3%	0.3	46.8%	46.8%	0.0
	中1	62.3%	61.6%	-0.7	72.3%	70.7%	-1.6	39.1%	40.0%	0.9
	中2	62.9%	64.2%	1.3	70.4%	72.0%	1.6	48.0%	48.5%	0.5
理科	小5	68.2%	67.7%	-0.5	71.0%	70.3%	-0.7	62.8%	62.8%	0.0
	中1	47.1%	45.8%	-1.3	52.2%	50.8%	-1.4	38.3%	37.0%	-1.3
	中2	54.7%	54.0%	-0.7	57.3%	57.1%	-0.2	48.9%	47.4%	-1.5
英語	中1	70.7%	71.7%	1.0	69.9%	70.8%	0.9	71.7%	72.7%	1.0
	中2	59.4%	60.2%	0.8	68.1%	68.2%	0.1	47.7%	49.4%	1.7

2 各教科の現状と今後の取組の方針

(1) 国語

小5においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を下回っており、県よりも学力の層のばらつきが大きく、学力差が大きい。特に、「思考・表現」において、下位層の割合が高い。これまで以上に個に応じた指導に努める必要がある。

中1においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を上回り、県よりも上位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の学力を引き上げることで、学習集団の更なる学力向上が期待できる。

中2においては、「思考・表現」が県平均を下回っており、県よりも下位層の割合が高い。目標水準の引き上げ等により、中位層の学力を高めることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。

今後の取組としては、説明や発表、討論等の言語活動を通して、意見や質問、助言等を交流する経験を多く積み、自分の考えを広げるとともに表現力を高めるような授業展開が必要である。

(2) 社会

小5においては、「基礎・基本」が県平均を下回っており、県よりも若干、上位層の割合が低い。逆に「思考・表現」では県よりも上位層の割合が高い。全体的に学力のばらつきが大きく、個人差が大きい傾向がある。これまで以上に個に応じた指導に努める必要がある。

中1においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を下回り、特に「基礎・基本」が大幅に下回っている。県よりも上位層の割合が大幅に低く、下位層の割合が高い。基礎的・基本的事項の定着が大きな課題である。

中2においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を大きく上回っている。県よりも上位層、中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。中位層の学力を引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。

今後の取組としては、地図や表、グラフ等、様々な資料の基本的な見方を理解させるとともに、資料から分かることを自分の言葉で文章化させたり、発表させたりすることで、理解を深化させ、表現力を高めるような授業展開が必要である。

(3) 算数・数学

小5においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均とほぼ同程度で、県よりも上位層・中位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の学力を引き上げることで、更なる学力向上が期待できる。

中1においては、「基礎・基本」が県平均を下回っている。県よりも上位層の割合が大幅に低く、下位層の割合が若干高い。学力の層のばらつきも大きいことから、個に応じた指導に努めるとともに、中位層の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図る必要がある。

中2においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を上回り、特に「基礎・基本」で大きく上回っている。県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の学力を引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。

今後の取組としては、言葉や数・式・図・表・グラフ等を用いて、自分の考えを根拠を含めて表現させたり、児童生徒同士で考えを交流させたりする中で新たな考えに気付かせるなど、児童生徒主体の学習活動の工夫が必要である。

(4) 理科

全学年において、県平均を下回り、本地区で最も課題の大きい教科である。

小5においては、特に「基礎・基本」で県との差が大きく、学力のばらつきも大きい。これまで以上に、個に応じた指導に努める必要がある。

中1においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに、県平均を大きく下回り、課題が大きい。県よりも下位層の割合が高く、特に「基礎・基本」においてその傾向が強いことから、基礎的・基本的事項の定着が大きな課題となっている。

中2においては、特に「思考・表現」で県平均を大きく下回っている。下位層の割合は決して高くはないが、県よりもばらつきが大きく、特に「基礎・基本」でその傾向が強い。これまで以上に、個に応じた指導に努める必要がある。

今後の取組としては、日常生活における具体的な場面や自然の事物・現象を基に、学習への課題意識を高めるとともに、目的意識をもって、観察・実験を行い、根拠を基に説明する機会を設定するなど、科学的な見方・考え方を養う授業の展開が必要である。

(5) 英語

本地区においては、最も安定して定着が図られている教科である。

中1においては、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を上回っている。県よりも上位層の割合が大幅に高く、下位層は低くなっており、確かな学力が身に付いていることがうかがえる。

中2においても、「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を上回り、特に「思考・表現」で大きく上回っている。県よりも上位層と中位層の割合が高いが、学力のばらつきも大きい。これまで以上に個に応じた指導に努めつつ、中位層の学力を引き上げることで学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。

今後の取組としては、基本的な表現を様々な場面設定の中で繰り返し使用させ、言語の形態や意味だけでなく機能についての理解も深めながら、4技能を有機的に統合させるなど、総合的な表現力を高める授業の展開が必要である。

3 学習状況と今後の取組の方針

- 教師の児童生徒への学習に対する動機付け、意欲付け等がよく行われており、児童生徒は、全体的に、真面目に学習に取り組んでいる。
- ペア活動やグループ活動はよく行われているが、それらの質的向上を図り、身に付けた知識や技能を活用する力を更に高める必要がある。
- 多くの問題に取り組ませるなど、学習事項の定着の徹底を図ることも必要である。
- 児童生徒の家庭学習への取組は良好であるが、学習内容との関連付けをより明確にした家庭学習の推進により、更なる学力の定着が期待できる。